



その4 大地申第5号 安全と技術・技能継承、働きがいのもてる「乗務員勤務制度の見直しについて」の運用を求める申し入れ

4、支社企画部門社員が乗務を行うことから、担務している業務量の課題克服の考えを明らかにすること。また、支社企画部門社員が短時間行路を乗務する期間を明らかにすること。

会社回答) 企画部門の業務量については、引続き業務改革や生産性向上に取り組んでいき考えである。

組合：支社で勤務する方から現在の業務量で乗務は大変だとの声が出ている。この課題への対策は？

会社：支社の業務は振り分けながらきている。業務量をいかに減らすか考えている。支社勤務の方が乗務してきてからの業務はしっかり把握していく。毎日指定するのかもしれないのは各区所との調整となる。

組合：乗務をしながら出来る業務、業務量の基準は何か？

会社：我々支社企画部門の業務量は難しい。急な事象や今日の交渉もそうだ。抽象的で申し訳ないが定量的な業務、はかれるものというイメージ。決まったものはない。人によって能力は違う。得意、不得意はある。個人の能力を見ながら仕事は調整していく。

乗務する企画部門社員の業務・業務量は明確にならず…

組合：個人の把握からその人に合った業務量、業務というのは難しい。イメージはつかない。現在支社勤務されている方からの声では無理と言われている。これでは職場には返せない！

会社：制度の目的は現場の声を伝えること。全体としてはレベルが上がる。目的に沿って見ていく。現場で考えていることを支社の中で伝えてもらうということ。懸念している過度な負担は、内容見ながら仕事を与えていく。

組合：本部本社でかなり時間をかけて議論してきた部分であり、重要なところだ。支社の業務は多岐にわたっている。異常時なども含めて自分の仕事を置いてまで担わなければならない。業務量を注視していかなければならない。病にかかってしまう可能性も考えられる。しっかりフォローする体制を構築していただきたい。

会社：組合が主張する懸念の部分にさせてはならない。何が出来るか約束できないが、しっかりフォローしていく。

組合：企画部門社員の乗務する期間の定めは？

会社：ない。

過度な負担とならないように業務量を見ていくことを確認！

組合：サテライトオフィスなどの活用についての考えは？

会社：サテライト勤務は試行中。現在支社と宇都宮にある。試行期間であり本使用については本社が決める。

組合：企画部門社員が乗務するにあたって、構内の入出区などすべての作業が出来るように教育すべき。

会社：基本的に決まりはない。本線運転士と同じ教育だと思う。各区所別に教育の在り方は考えていく。

組合：異常時どのような取り扱いが発生するのは分からない。しっかりと教育すべきだ。

支社：区所とやり取りしながら線区の特情等で考えながらやっていく。

組合：今回の交渉の中では不安は払しょくできない。企画部門社員の業務量の関係は注視していきたい。安全に集中できる体制を構築すべきだ。今後も労使で見えていく。

企画部門社員の業務・業務量については安全な体制となるように求めました！その5へ→